

# 駒場桜会会報

第94号

2014年4月1日発行

一般財団法人  
駒場桜会  
都立駒場高校同窓会

〒153-0044  
目黒区大橋2-18-1  
都立駒場高校内

TEL/FAX

03-3466-7579

(毎月曜日の業務日  
以外は留守番電話)

携帯電話からも住所  
変更ができます。



住所変更専用  
QRコード

## 夢の向こう

森田 泰弘 (駒29)

2013年9月14日、世界初となる“人工知能”を搭載した新型国産ロケット「イプシロン」が、世界中の注目の中、打ち上げられました。組み立て時から打ち上げまで、ロケット自ら点検作業を行うセルフチェック機能を備えた、まさにロケット革命！ この開発プロジェクトを率いたJAXA(宇宙航空研究開発機構)の森田泰弘氏にご寄稿いただきました。



昨年9月、待望のイプシロンロケットが多岐のみなさんの後押しに支えられて無事に打ち上げられました。今まで何機もロケットを打ってきましたが、これほど完璧なフライトは見たことがなく、私の想像も超える大成功でした。小さい頃から宇宙にあこがれ、大学院時代から嬉々としてロケット開発に打ち込んできた私にとって、また、7年間イプシロン開発を引っ張ってきたリーダーとして、これはまるで高校球児が念願の甲子園出場を果たしたような出来事です。苦しくとも頑張ってきた。終わってみれば最高でした。イプシロンの一番いいところは未来志向と言うところにあって、私も過去よりも未来を考えるのが好きです。しかし、堅い話は抜きにして、夢の向こうを考える出発点として、ここに至るまでの道程を少し振り返ってみることにしたいと思います。

羽田から鹿児島空港まで飛び、そこから車で2時間あまり走ると小さな海辺の町に出る。ここが固体燃料ロケットの聖地「内之浦」だ。かつては陸の孤島と呼ばれ、今なお大自然のた

だ中にある。遠く水平線には入道雲の行進、山々からは時間も止まるような蝉の声。こんな自然がまだ日本に残っているとは奇跡のようだ。イプシロンの打ち上げ準備のため、もうひと月以上ここにいます。作業で疲れた帰り道、見上げると見事な天の川。心が和む。遠い夏の日の思い出：小学生時代、千葉の海や山で遊び疲れて見上げた星空は降るようだった。あの宇宙の彼方にはいったい何があるんだろう、いつか行ってみたい。そう思ったことが頭の隅をかすめ、ちよつと可笑しい。どうやら、小さい頃のそんな思いが今のほくにつながつているらしい。一瞬の瞬きのように、まるであの頃から多くの夏休みはずっと続いているのだろう。



何年も前、サハラ砂漠を旅した。そこは砂と星と風だけの世

界。砂漠をわたる微かな風の音、砂丘に沈む真っ赤な夕日。屈託のない仲間の笑顔。ただ生きていくだけで幸せだ。天幕から見た満天の星空に人工衛星がひとつ金色に輝きながら流れていく。その光がとても近くて遠く感じられ、宇宙も地球も一層愛おしい。砂漠の探検は、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還に備える実験だ。だが、カプセルを乗せた小さな衛星はロケットからの分離に失敗。カプセルがサハラ砂漠に帰ってくることはなかった。栄光の「はやぶさ」ミッションの陰にも、こうして流した涙があった。いつ抜けるとも分らない胸に刺さった小さくて大きい棘。しかし、それもイプシロンの歓喜の涙で抜け落ちた。こんな逆転勝利を誰が想像できただろう。くじけずにいられたのは、自分の夢に後押しされてきたからに違いない。

人生の転機になるような出来事が誰にでもあるだろう。それは、よくにとっては小学校5年生の時の野球との出会いとアポロの月面着陸だ。それまで鳴かず飛ばずだったばかりに、野球は初めて自信というものを与えてくれた。自分にも人並み以上にできることがある。それ以来、いつも野球ははくともにもあり、野球への自信がはくものあらゆる才能を開花させていった。なのに、高校2年になったころ、はくはつらい練習に耐えかねて野球をやめてしまう。その



④



⑤

- ①打ち上げ成功の瞬間のイプシロン管制センター(内之浦宇宙空間観測所)
- ②発射台上のイプシロン(内之浦宇宙空間観測所)
- ③M-Vロケットの実物大模型の前で(相模原キャンパス)～手にはイプシロンの50分の1モデル
- ④イプシロン発射の瞬間(内之浦宇宙空間観測所)
- ⑤イプシロン管制センター内の管制室(内之浦宇宙空間観測所)
- ⑥イプシロンロケットの風洞試験用モデルを持って(相模原キャンパス内の研究室で)～モデルの縮尺は50分の1

直後に訪れた喪失感。初めて味わう人生の挫折。あんなに大好きだった野球をやめた悔しさ。いったいぼくにはどんな人生が待っているんだらう。しかし、やがて内なる悔しさが再生のエネルギーに転じる。もう二度と夢を諦めることは自分に許さない。その誓いが、ぼくのもう一つの夢、つまり宇宙への夢にかろうじてつながった。

イプシロンロケットは宇宙開発の未来を変える挑戦である。パソコン2台でロケットを打つモバイル管制は世界がお手本にする革新技術であり、ぼくたちは「はやぶさ」を超えて、宇宙ロケットでも世界の檜舞台に躍り出た。しかし、産みの苦しみもあった。「はやぶさ」を打ち上げたM-Vロケットは世界最高性能と言われつつ、高コストを理由に引退。これは固体ロケット開発史上、最大のピンチである。世界一のM-Vを超えるロケットを編み出さない限

り、固体ロケットには明日も来もない。真つ暗な荒野をさまよい歩くような辛い日々が過ぎた。そういう追い詰められた状況の中でついに飛び出したのは、モバイル管制と言う世界も驚く逆転ホームランであった。まさに起死回生。逆境こそ飛躍のチャンスであった。そして、それは一つの大きな夢の実現でもあった。

この道に入ってから人は人との出会いに恵まれました。恩師の秋葉鎌二郎先生は、ロケット開発の父と呼ばれる糸川英夫博士の一番弟子です。先生からは、大切な教えを受けました。「工学は人間関係、人を大事にしないといけない」。イプシロンのフライトは素晴らしかったですが、本当に素晴らしかったのはみんなと夢を追って走り続けた7年間だと思います。みんな頑張ったからこそ、『あこがれの甲子園』の土を踏めたので



**プロフィール**  
 JAXA宇宙科学研究所 宇宙飛翔工学研究系教授。工学博士。  
 東京大学工学部航空学科卒業。同大学院工学系研究科博士課程(航空学専攻)修了。カナダ・プリテック・コロンビア大学機械工学科客員研究員を経て、1990年にシステム研究系助手として旧文部省宇宙科学研究所(現JAXA)に着任。同年、M-Vロケットの開発がスタートし、主にシステム設計や誘導制御系の研究開発を主導するほか、火星探査機などの展開構造物や、小型月探査モジュールの姿勢制御系の開発にも携わる。2003年、M-Vロケットのプロジェクトマネージャー、2010年よりイプシロンロケットのプロジェクトマネージャーとして我が国の固体ロケット開発をリードするとともに、宇宙飛翔工学研究系教授として研究教育に携わる。専門はシステムと制御。

しょう。それから、忘れてはならないことがもうひとつ。私が夢を追い続けることができたのは、駒場高校の自由で個性を重んじる校風に鍛えられたところが大きいと思います。これから未来にはばたく若いみなさんにも、ぜひ自分たちの夢を見つけ、それを大切にしてほしい。そんな特別のエールを送りたいと思います。私のイプシロンの挑戦も始まったばかりです。まだまだ夢は大きく膨らませていきたい。夢のはるか向こうに向かって、これからも走り続けたいと思っています。



駒66-6 柿沼 彩莉

振り返ってみると、駒場高校での3年間は毎日が充実していた本当にあつた

いう間でした。憧れだった駒フィルに入り、初めてチェロという楽器を手にし、思うように弾けるまで悪戦苦闘の毎日でした。それでも向上心を持ち続け練習できたのは、切磋琢磨し合える仲間が存在があつたからだと思います。一番の思い出は、最後の定期演奏会で皆が一つになり演奏できたことです。また2年生の夏に先輩方と全国大会に出場できたことは貴重な体験となりました。このような部活での充実した時間があつたからこそ日々の勉強も頑張れたのだと思います。



駒66-保 道下 慶

駒場高校で過ごした3年間はとても充実したものでした。入学したばかりの頃は、まだ一人一人の意識が低く、先生に指示されてから行動することが多くありました。しかし、3度の実習を終えていくうちにそれぞれが自分で考えて行動できるようになり、自分の行動に責任がもてるようになり、一人一人の意識が高くなりました。一人一人の意識が高くなったのも間違つたことは注し合い、辛いときに共に乗り越えてきた仲間がいてくれたからだだと思います。

の頃からトップチームに入ることは出来たものの、自分の力の無さを思い知ったり、自分のサッカー観とチームのサッカー観の違いで悩んだりしました。また、部活動で忙しく時間が他の人より少ない中で、勉強にも取り組まなければなりません。しかし、いやむしろこのような厳しい環境だったからこそ、自分を支えてくれている人の大切さなど多くを学びました。そして最後までやり遂げたという自信も得られました。私は大学でも厳しい環境から逃げず、自分自身を成長させていきたいと思っています。

私を成長させてくれた駒場高校で過ごせたことを誇りに思うと同時に、感謝の気持ちでいっぱいです。ここで培った経験と素敵な思い出を胸に、大学でも向上心を持って前に進んでいきたいと思っています。

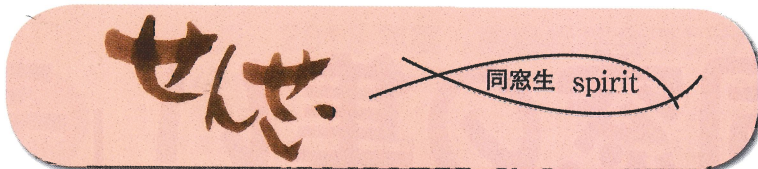


駒66-7 今井 淳貴

今振り返ると、駒場高校での3年間は本当にあつたという間でした。し

かしても充実していて、私にとつては貴重な時間になったと思います。駒場高校での生活は、正直本当に大変でした。サッカー部で、1年生

また、日々の生活を通してあたり前のことをあたり前に行けるようになり、1保の頃には慣れなかつた挨拶も今では無意識にできるようになり、駒場高校で人としての基本を身につけることができました。何もできなかった私たちに一から指導してくださった先生方に感謝し、駒場高校で得たものを活かして大学でも努力していきたいと思っています。



テレビ電話で対談中の平島満先生 (2013年11月松桜会事務局にて)

今回の「せんせい」と「同窓生spirit」は、長年駒場高校保健体育科で教鞭を執られた平島満先生(駒12)と教え子で現在国立鹿屋体育大学教授の北川淳一氏(駒26)のテレビ電話対談です。

1964年の東京五輪出場を惜しくも逃された平島先生と、80年のモスクワ五輪で日本のボイコットで出場が叶わなかった北川氏のお二人に当時の思い出などを語っていただきました。



北川淳一氏

文武両道の駒場高校保体科 北川さんは小学校4年で、東京五輪メダリスト、小野喬・清子夫妻が主催する体操教室に入られました。駒場時代は学校と体操教室とでお忙しかったのでは？ 北川 授業が終わると学校の部活、その

後体操教室へ行き練習。帰宅するのは毎晩10時という生活を3年間続けました。体操が大好きでしたから耐えられました。その間、保体科の実習や実技発表会もありましたが楽しくてね。一生の思い出です。

保体科の生徒は、必ずしも北川さんのように一流の競技選手を目指す生徒ばかりではないと思いますが、平島先生はどのように指導されたのでしょうか。

平島 生徒たちには、競技者を目指すかどうかに関わらず、保体科の生徒として文武両道の充実した高校生活を送らせたいということを第一に考えており、どの生徒にもこの指導方針を基に指導しました。

北川君にとっては、学校での練習は施設面も含めて物足りなかったかも知れませんが、「競技者」としての土台は駒場での3年間に築くことができたのではないかと思います。

モスクワ五輪代表選手

北川さんは順天堂大学に進学し、その後モスクワ五輪の代表選手に選ばれます。代表選手になられるまでの苦労は？

北川 高校までは楽しく体操をしていましたが、大学の合宿所に入ると上下関係が厳しく、先輩達の食事の買い出しから支度、片付けまでやり、自分の時間がない生活にカルチャーショックを受け、精神的に参ってしまい、カウンセリングを受けました。

部の先生方のご尽力もあってそのつらい時期を乗り越え、インカレ優勝アジア大会で金メダル3つなど成績は飛躍的に伸びました。「トランポリンでジャンプするとき下に深く沈むほど高く飛べる」そんな感じでした。

平島 怪我をしたことも…。 北川 はい、頸椎捻挫で2回入院してこの時はかなり精神的につらい時期とも重なり、大学をしばらく休みました。平島 その頃だったね。「からからしているなら駒場へ遊びに来てい」って声をかけたのは。

北川 はい、その時お話しできたのがターニングポイントになったと思います。本当にありがたうございました。

平島 そうして五輪代表選手に選ばれたから、日本のボイコットで出場できなかったことについては？

北川 体操競技は日本の代表になるのが一番難しかったです。代表になればメダルは取れるだろうと言われていました。私自身も跳馬、平行棒、鉄棒で世界のトップクラスにいましたから、オリンピックは本当に楽しみでしたが、国が決めたことですから仕方ないですね。



1980年モスクワ・オリンピック最終予選会 鉄棒の手放し技

その後の待遇にも大きな差があります。でも私がオリンピックのメダリストになつていたら高慢になって、今の私はなかったかもしれせん。現在、両親と家族にも恵まれてとても幸せです。

一流選手の特徴

平島 たしか、その後は指導者を目指したのだったね。

北川 「社会体育」という勉強のためカナダに留学しました。

平島 最近では子供の指導にもあたっているように感じます。

北川 はい、鹿屋体育大学にきて競技者の指導をはじめましたが、今は子供の体育指導者の指導や幼稚園での体育指導もしています。子供には大きな可能性が広がりますから。

平島 英才教育についてどのようにお考えですか。 北川 自身は英才教育を受けた走りではないかと思えます。やはり小さいときに基本をきちんと教えることが速いんですね。体操競技に必要な能力として痛みに強い「空中感覚が優れている」などの要素がありますが、これを満たすよ

うな基本指導をきちんと行うことで将来大きく伸びます。後はどれだけ我慢できるか、どれだけ欲張りになれるかが一流選手になるポイントだと思います。

ただ、学生連には「競技でトップに立てるのは少数。大事なのは競技でトップに立てなくても社会に出て役に立つ道を探そう」と言っています。

平島 先生も前の東京五輪の十種競技代表選考会で3位に入賞されていますが、平島 学生のときは強くなりたい一心でしたけれど、怪我や失敗で思うように行かず、自分だけのためなのかと焦った時期もありました。それがある時から、長く続けていられることもあるかも知れない、と思うようになり気持ちも楽になりました。私が一流とは言わずとも二流の上まで行けたのは長く続けたためだと思います。教員になってからも6年間競技を続けていたのですが、不思議なことに学生時代と比べて練習量が減っても成績はあまり落ちませんでした。教員になって5年目に出場した福井国体では4×100Mリレーで優勝も出来ました。肩の力が抜けて、調整が上手くなったのでしょ。その後、駒場に来ることになり指導に専念することにしました。



第36回国民体育大会会場にて

平島先生は今もお忙しそうですが。 平島 全国定時制通信制高等学校校長会、駒場松桜会、駒場保体科の同好会、駒場幼稚園、母校東京教育大学の同窓会等の仕事で忙しい毎日です。仲間内の合言葉は「2020年の東京オリンピックまで元気でいよう」です。

北川 私もおも7年半で定年ですが、やりたいことがたくさんあります。体育館を建設し子供たちの体操教室を開くつもりです。また長年続けている熱帯魚のブ

リーダーや木工細工にも時間をかけたらしい、誰もが使える「運動辞典」みたいな本も作りたいです。

最後に 北川 中学時代、体操の強い私立高校から声をかけていただいたのですが、勉強と運動を両立させる文武両道の駒場高校に通えたことは今も誇りに思っています。順天堂大学、大学院と進み、今は鹿屋体育大学で教鞭を執っており、駒場で頑張った3年間を土台にして文武両道を指導しています。

平島 競技だけでも、勉強だけでも、常に競技と勉強の両立を指導してきた私としては、そう言ってもらえると、とても嬉しいよ。

お二人とも、どうもありがとうございました。

略歴 table with columns for Kitahara Junichi and Hironaka Mitsuru, listing their education and career milestones from 1974 to 2006.

定の先生方  
 任の先生方  
 生(保体)  
 生(英語)  
 生(社会)  
 生(生物)  
 生(書道)  
 生(英語)  
 生(数学)  
 生(保体)  
 生(社会)  
 生(保体)  
 生(数学)  
 頁  
 引中です)

# 第8回「同窓の集い」予告

**学年幹事は駒 26、36、46 回生 新入会員も大歓迎!!**

「同窓の集い」は会場を四谷に移して2年目、毎年懐かしい恩師の先生方も多数出席され、世代を超えた同窓生の交流の場としてすっかり定着してきました。  
 今年も学年幹事の企画による催し物、第三から駒場へと受け継がれた伝統ダンス・コチロン、若い世代にお馴染みの沖縄太鼓などが披露されます。老いも若きも一同に会して四谷の会場を熱気で包みませんか? 新入会員は歓迎会を兼ねますので無料招待です。奮ってご参加ください!!



5年度「同窓の集い」会場の様子

**日 時**：平成 26 年 6 月 7 日 (土)

**受 付**：12 時 30 分～

**同窓の集い**：13 時～15 時 30 分

**会 費**：5,000 円 (第三卒・未成年 2,000 円)

新入会員 (駒 66) は無料です

当日受付でもお支払いいただけますが、混雑が予想されますので、会報に同封の振込用紙にてお振込みいただけますと助かります。  
 なお、先生方をご招待させていただきます。

## を深めましょう! 高島 (柿沢) 弘子 (駒 26)

駒26

幹事の高島です。私たちの学年は50歳に到達したのを機に、新上げ、4年ごとに開催して横の繋がりを深めてまいりました。そえる今年、松桜会「同窓の集い」の幹事学年なのです。松桜会総会は、7業生の親睦を図る交流の場へと、大きな変貌を遂げております。会は、澁刺している先輩方や、社会の中核で活躍している後輩たちと、私たちの知らなかつちが卒業してから今日までの駒場について語り合い、親交を温め合う絶好のれます。

6も積極的に松桜会「同し、これまで育んできはなく、これを契機にを拡げて、絆をより深



## 千鶴子 (駒 36)

ご無沙汰しています。縁びかけをさせていただき家庭に、あるいは趣味にしくも充実した時を重ねることと思います。卒業30年節目の今、同級生、おなつた先生方、先輩・後さんと新たな交流が生ま素敵ですね。積もる話7日(土)に!

## 井口 (山口) 麻里 (駒 36)

駒36

卒業して30年。少し心の余裕ができたので、初めて駒場高校同窓会に参加しました。第三高女時代の大先輩にお会いできたり、現サッカー部の選手の活躍話を聞いたり、また懐かしいコチロンも見られて楽しいひと時でした。20歳から習い続けている華道は、今はデパートやイベント会場などに年に1-2回出展しています。久しぶりに同窓会に出てみませんか。



## みな 集まれー! 金木 和也 (駒 46)

駒46

か! 平成3年に入学した私たち駒46は卒業して20年が経ちます。子育てと現役真っ只中と思いますが、ちょっと振り返ってあの青り合いませんか? 2014年度の「同窓の集い」は駒26・36の先も幹事学年を務めます。旧校舎の生活、新校舎の感激、体育祭や思い出しながら久しぶりに再会する顔を探しに、先ずは気軽にさい。この会をきっかけに、また皆様と交流できればと思います。スケジュールに「駒場 同窓の集い」と書き込んでおいてください! お逢いできることを楽しみにしております。



## 会場：スクワール麹町 3階「錦華」

東京都千代田区麹町 6-6  
 TEL 03-3234-8739

### ○交通

JR「四ツ谷駅」麹町口地上に出て正面  
 東京メトロ 丸の内線 南北線「四ツ谷駅」より徒歩2分  
 東京メトロ 有楽町線「麹町駅」より徒歩6分



スクワール麹町



### ♪♪ 2013年度 駒場松桜会コンサート ♪♪

#### 次回 「松桜会コンサート」 のお知らせ

2014年12月6日(土)14時から東京オペラシティリサイタルホールで神野優子さん(駒17)のヴァイオリンリサイタルを予定しています。ゲストに宮林陽子さん(ヴァイオリン)と川名久子さん(ピアノ、駒17)をお迎えします。どうぞご期待ください。(「同窓の集い」でも演奏をご披露いただきます)



朝晩めっきり寒くなった晩秋の11月30日(土)、東京オペラシティリサイタルホールに田嶋道生さん(駒29)、平倉信行さんの両氏によるギターデュオ『ドゥーズ・コルデ』をお迎えて駒場松桜会コンサートが開催されました。1979年結成のデュオですがお二人は幼稚園からの親友で本当は結成50年とのことだそうです。

暗いステージに暖かな色調のスポットライトが当たる中、お二人のギターの絶妙なハーモニーによる優しい調べのショーロ「鐘の音」でコンサートは始まりました。ショーロは130年程前にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで生まれたサロンミュージックで、サンバやボサノバの元となるものです。ショーロ「エニグマチコ」、ワルツ「ピシギーニャに捧げる一輪の薔薇」、タンゴ「ドン・ペレス・フレイレ」と数々のジャンルの演奏で、柔らかなそよ風の様なギターの響きを堪能させていただきました。

続いて、パーカッションの栗山豊二さんが加わってアップテンポな演奏となると共に、楽しいトークが場内の笑いを誘い、とても和やかな雰囲気へと変わって行きました。第一部の最後はサンバのリズムでの名曲「アメージング・グレース」の音色に、場内の皆さんは各自の想いを重ね合わせているようでした。

休憩を挟んだ第二部はバッハの曲の演奏から始まり、ギターの音色がクラシックをより身近な柔らかな音楽へと変えてくれ

ました。お二人のバッハのCDは、胎教に良いとの評判や手術のBGMに使われているお医者様もおられて大好評とのことでした。

映画「オカンの嫁入り」と来春公開の「そのみにて光輝く」の中で田嶋さんが演奏されたホロツとする2曲へと演奏は続きました。会場には両作品の監督の呉美保さんと作曲の田中拓人さんも来られていて、サプライズの紹介に場内の皆さんから温かい拍手が起きました。

タンゴの名曲「エル・チョコクロ」「ブエノスアイレスの夏」、バッハを題材にしたショーロ「パショランド」等の哀愁を帯びた泣ける音楽と軽妙なトークで会場は大いに盛り上がりて行きました。

アツと言う間に、アンコールの時となり最後は、スタンリー・マイヤーズ作曲の名曲「カヴァティーナ」で大拍手の中ステージはお開きとなりました。

終演後もお二人には来場の皆さんとの交流の時間を沢山持っていただき、更なる心温まる一時を持つことができました。



#### 速報!ご出席!

(幹事学年の担

- 安孫子友行先
- 小川 碧 先
- 小野塚克治先
- 小林 祥男先
- 齋藤いづみ先
- 佐藤 信夫先
- 田辺 仁士先
- 林 秀吉先
- 菱刈 隆永先
- 平島 満 先
- 山本 茂之先

(50音

(現在も順次お



平成2

#### 駒場の絆

駒26の皆さん、たに同期会を立ち上げて還暦を来年迎年前から、駒場卒と人生を謳歌された頃の駒場、私た機会を提供してくさあ、私たち駒窓の集いへ参加した横方向へだけでなく縦方向へも繋がりをめましよう。

#### 金剛寺

駒36の皆さん! あって同窓会の呼んでいます。仕事にと、それぞれに忙している年とい世話に輩の皆れたら6月



#### 駒46のみ、

皆様お元気です仕事に、家事に春時代のことを語輩方とともに駒46文化祭など懐かし参加してみてください今から6月のス多くの同窓生に

#### ●第16回コチロン合宿のお知らせ

日時 2014年10月7日(火) ~8日(水)

場所 国立女性教育会館  
TEL 0493 - 62 - 6723

#### ●コチロンを踊る会

日時 4、5、6、7月  
毎週第3火曜日、月1回土曜日  
午後2時~4時

会場 生徒ホール(変更の場合は掲示します)

#### コチロン合宿報告

今年もコチロンの合宿に参加させていただきました。

学校での練習とは違い、合宿では国立女性教育会館の広い体育館でのびのび踊ることができます。第三高女の大先輩小杉さんはじめ、諸先輩方に小貫先生の教えを思い起こしていただきながら、楽しく踊ることができました。また、夜は、私の知らない戦前戦後の駒場の興味あるお話を伺えるのも合宿の楽しみの一つです。

伝統あるコチロンの踊りを、皆様もぜひ次回は一緒に楽しみませんか。  
志村文子(旧姓 木村)(駒24)



#### 都駒祭参加報告

2013年9月15・16日

今年畳替えが行われた仰光寮を一般公開し、「松桜会美術展」として「石彫一柔らかな印材を彫る」・「板作りによる粘土成型」講座受講生の作品を展示いたしました(来場者120人)。15日には講師 金城靖子先生(駒16)の「石彫」の講演会会場にもなりました。203教室では、「お休み処」、羽島知之氏(駒6)提供の号外「富士山世界遺産登録決定」、「夏季オリンピック東京開催決定」の展示もあり、冷房の効いた部屋でお食事でき、来場者(1030人)には好評でした。恒例のコチロン・ダンスのデモンストラーション(16日)は生憎台風遭遇し、出演者の安全を考慮し、大変残念でしたが中止にいたしました。



203教室



▲仰光寮



◆特別寄稿◆

はるかなるもの  
みな青し

今回は駒5回卒業生による特別寄稿をお届けします。駒5回は戦後の学制改革によって生まれた新制中学校の第一期生で、1950年、新制度による男女共学となった駒場高校の最初の入学生です。

その方たちが今年傘寿を迎えます。時代の大きな転換期に駒場に入学した最初の男女共学世代が当時を振り返って今思うことは…。

同期会で、ある友が言った。わが同年代の特徴は、出された食べ物を残せない、約束の時間に遅れることができない、ダンスができない、この「三つの無い」だ。

1931年満州事変・1937年日中戦争・1941年太平洋戦争、いわゆる一五年戦争の最中、1934・5年生れの私たちは、小学校に通ったことがない。6年間ちよと、「国民学校」と名前が変わっていたから。

国民学校五年生だった1945年8月15日、日本は太平洋戦争に敗れた。その日、日本全国、太陽の輝く青空だったという。やがて、私たちは、疎開先か

ら、外地から、焼け野原の東京に続々と帰ってきた。

手洗い、口すすぎ、押し頂いて開いた教科書は、幾行も幾ページも墨で塗りつぶした。活字に対する信頼は失われた。

教員も、軍国教育を施し、教え子を戦地に向かわせ、その命を奪ったという心の責め苦を味わっていた。教員に対する信頼もまた失われた。

中学校では、3年間、ずっと最上級生だった。6・3・3制度が発足し、新制中学の第一期生だったから。

私の中学校の校舎は、兵舎がそのまま転用された。兵馬の水飲み場の水が私たちの飲み水だった。

林間学校・臨海学校、修学旅行などの行事も行われたが、参加する者は少なかった。

電話・風呂・自転車のある家は稀だった。上級生のいない中学が、怖いもの知らずのこの世代特有の人格を作った。

私たちが都立駒場高等学校に入学した1950年、高校の校舎もまた兵舎だった。筑波大駒場・目黒一中なども、陸軍の兵舎の転用だった。木造校舎の廊

下や階段は軋んだ。兵士の置き土産もあった。教室の柱の割れ目に南京虫が住み着き、そこへ割り箸を突き込むと、吸われた人の血がにじみ出たと聞く。ダニも繁殖して、生徒たちを悩ませた。

朝鮮戦争が勃発した。53年の休戦まで、日本は朝鮮動乱の特殊に沸き、経済は上昇に向かったが、私たちの多くは、相変わらず、貧窮の中にいた。

高校には、男子の上級生がほとんどいなかった。都立第三高等女学校が、都立駒場高等学校となり、公式には、男女共学となった初めての入学生だったから。新入生300人の男女比率は、1対2で女子が多かった。

国民学校で権威の失墜を目の当たりにし、新制中学で頭をおさえられることのなかった野放図な生徒たちを、どう御したらよいか、先生たちも悩んだことと思う。

第三高女と、駒場高校との落差は少なくなかった。一方の象徴が「仰光寮」であり、他方が「牧野虎雄記念館」(編集部注…1950年・1972年)である。一方がコチロン、カドリールの

フランス宮廷舞踊であり、他方が芸術科(音楽クラス)(編集部注…音楽専攻、美術専攻からなる芸術科は1972年に都立芸術高校として独立)による月例コンサートである。

私たちが一年生の時の体育祭で、入場行進の先頭を歩んだのは、府立第三高等女学校の校旗だった。翌年、駒場高校の校旗ができた。

現在のプールのある場所は(編集部注…1992年新校舎完成前の屋外プールがあった場所)、草の生い茂る谷間だった。そこは、語らいの場所であり、コーラスの歌声の響く場所だった。

小学校から国民学校、旧制中学校から新制中学、さらに、新制高校と、学制改革の谷間を常に歩んだ私たちにとって、駒場高校の谷間は、青春そのものだった。

「駒5の会」は、時代の青春と自らの青春とが一致した稀有な時を過ごし得た幸運を思いつ、「はるかなるもの みな青し」・『碧空』と、2冊の小冊子を編んだ。

傘寿を迎える私たち。体は老いても心は青春。2014年5月18日、これが最後といいながら、いつまでもつづく「駒5の会」に全員集合。諸兄姉の健康を。

宇佐美進一(駒5)  
「医療のいまどき情報」はお休みさせていただきます



駒場松桜会  
地方支部から

●関西支部

当支部は開会より九十五周年を祝い、全盛時代には百数十名の会員、有名な先輩を揃え仰光寮との交流も親しく続きました。時代は変わり本部は男女共学駒場松桜会となり、その後百年祭に祝電を送って後、松桜会本部からは年二度の会報のみ。支部便りの寄稿案内も無く、或いは会則も新しく変わった事と考え、関西支部は独立会長、支部長、幹事の制度を作り、私が会長として今日迄。

会員数は時代と共に少なくなり乍ら年二回の同窓会は盛大にとホテルその他有名店で、親睦会も四季折々に、コーラス部もと楽しい会です。現役で活躍中の方、定年後も各自の世界に、主婦役も卒業とストレス発散の支部年入会者無く、関西に移住された方も会の存在さえ知らずという現在です。

今回松桜会の現状も分かり改めて独立制を止め本部の支部制に従い支部長名を報告しました。駒場生の時代となりました。会報に紹介して頂く事も今後の新しい会の発展にもと考え会長最後のご挨拶とします。  
樽井弥栄(第三24回中級)

母校生徒の活躍(1月25日現在)

- 男子バスケットボール部
    - ・インターハイ東京都予選ベスト16
  - サッカー部
    - ・全国高校サッカー選手権大会
    - ・東京都選Bブロックベスト16
  - 体操競技部
    - ・インターハイ東京都予選
    - 男子団体総合第2位
    - 女子団体総合第4位
  - 柔道部
    - ・インターハイ東京都予選
    - 女子団体第5位
    - ジュニアオリンピックカップ
    - 東京都大会女子体重別ベスト8
  - 剣道部
    - ・東京都国立高校剣道大会
    - 男子団体の部第3位
    - 女子団体の部優勝
  - 陸上競技部
    - ・東京都高校新人選手権大会
    - 男子400mハードル第1位
    - 女子400mハードル第4位
    - 女子100mハードル第7位
    - (以上関東新人大会出場)
    - ・関東選抜新人陸上競技選手権大会
    - 男子400mハードル第3位入賞
    - 女子100mハードル第8位入賞
  - 水泳部
    - ・東京都高校選手権水泳競技大会
    - 男子総合第4位 女子総合第6位
    - ・関東高校選手権水泳競技大会
    - 男子400mリレー(インターハイ出場)
    - 女子400m自由形(インターハイ出場)
  - 野球部
    - ・全国高校野球選手権東京大会
    - 3回戦進出
  - 演劇部
    - ・東京都高校演劇連盟中央発表会
    - 第1位 東京都教育委員会賞
    - (関東大会出場)
  - 百人一首部
    - ・関東地区高校かるた大会
    - 東京都代表チームに3名選出
- これからも母校生徒の応援よろしくお願いたします!

◆同期会開催のご案内◆

駒5「傘寿の会」

日時 5月18日(日) 12時~  
会場 新日鉄代々木倶楽部

駒14同期有志の会(紫陽花会)

初めの方、再度の方、大歓迎  
日時 6月28日(土) 12時~  
会場 楽園菜館  
目黒区鷹番1-2-6

会費 5,000円

出席連絡先 辻井典子  
Tel & Fax

03-3711-1047  
出席連絡締切日 5月31日

駒16同期会

卒業50周年の記念すべき同期会です。ぜひご参加ください。  
日時 5月17日(土)  
午後1時~3時  
(受付開始12時半)

場所 渋谷エクセルホテル東急  
(渋谷駅京王井の頭線駅上)

会費 8,000円  
連絡先 駒16同期会 事務局  
komaba16@gmail.com

同期会幹事一同

駒24同期会

サッカーワールドカップの年に開かれる恒例の駒24同期会を左記にて開催いたします。

今回は還暦を迎えた節目の同期会となりますので、第二の人生のスタートに向け、多くの皆様のご出席をお待ちしております。

日時 6月28日(土) 14時~18時  
会場 ハイアットリージェンシー東京  
地下1階 平安の間

★詳細は後日お送りするご案内をご覧ください。  
(幹事一同)

駒30同期会

日時 6月28日(土)  
受付 17時30分~  
開始 18時

会場 イタリアン・トマトカフェ  
ジュニア

東大駒場店(東大駒場構内)  
問い合わせ先  
駒場松桜会事務局

komaba99@komaba.or.jp

◆同期会の報告◆

駒3同期会

平成25年4月16日(火)に、渋谷エクセルホテル東急で、同期会としては最後の機会として、傘寿を祝う集まりを開催しました。

先生方は卒寿を迎えられた菱刈隆永先生、山中信夫先生のお二人がご出席になり、62名の会員が集まりました。

私たちの学年は昭和20年4月、麻布にあった都立第三高女に入学し、格調高い木造校舎で勉強したのは2か月足らずで、5月の大空襲で校舎は焼失。のち現在の場所に移り、駒場高校3回生として卒業、時代の変化と共に6年間の学校生活を終えた人が多く、思い出も深いものがあります。

会では楽しく食事や全員の自己紹介をした後、最近の学校紹介のビデオの映写と懐かしい合唱歌を歌い、お互いの健康を願いながら会を終えました。

藤井 千生子(駒3)

駒4 傘寿の会

10月12日霞ヶ関ビル35階東海倶楽部で正午より駒場4回傘寿の会を開催。平成24年に最後の同期会が盛大に行われましたが、皆の希望もあり、平成25年度に全員が80歳を迎えるので、「傘寿の会」として集まりました。70名が出席し華やかな会となり、志賀君の発声で乾杯、食事歓談と会場は花が咲いたような雰囲気でした。フランス、アメリカ、カナダ、オーストラリアからのメッセージの紹介もありました。



大事な年齢で、ぜひ来年も皆で会いたい気持ちになり、次期幹事も決まり、最後に第三高女・駒場高校の校歌、そして「故郷」を合唱して元気に散会しました。

中江 千恵(駒4)

剣道部60周年記念誌

発刊に寄せて

昭和28年学校剣道復活と同時に、駒7の張富士夫・山田希一両先輩によって創設された駒場剣道部に、昨秋創部60周年を迎え盛大に記念の集いを催しました。また「記憶を記録に残す」という基本的考えにより60年の来し方を振り返り記念誌の編纂をおこないました。既に駒剣会会員諸氏には配布を済ませましたが、手違いや住所変更などでお手元に届いていない方はご連絡いただければ在庫部数の範囲で送達の手配をいたします。

駒剣会会長 久能晃(駒10)  
akunoh@p08.jiscom.net

寄付者芳名

- 土屋 春子(駒2)
  - 土岐まり子(駒4)
  - 熊谷 明子(駒4)
  - 三上眞喜子(駒10)
  - 佐原 學(駒13)
  - 金城 靖子(駒16)
  - 飯田 高(駒26)
- 誠にありがとうございました。

計報

- 鈴木 仁寿先生(社会科)  
(2012年12月10日)
  - 安井 元久先生(国語科)  
(2013年1月22日)
  - 河村 廣通先生(国語科)  
(2013年8月1日)
- 謹んで、「冥福をお祈りいたします」

# 松桜会講座のお知らせ(平成26年度上期)

# 4/15 締切

対象者：駒場松桜会会員・母校教職員・PTA会員 他

申込方法：往復はがきに、次の内容を記入してください。

①講座名 ②郵便番号・住所 ③電話番号 ④氏名

⑤会員一卒業年度 教職員一所属 PTA会員一お子様の氏名・学年・ホーム

☆返信はがきには宛先の住所・氏名を記入してください。1つの講座につき1枚でお申込みください。

申込締切：4月15日(火) 申込先：〒153-0044 目黒区大橋2-18-1 都立駒場高校内 駒場松桜会事務局

## A 講座

講師

小西明子

(駒7芸術科)

多摩美術大学絵画科  
(油絵)卒業  
日本きりえ協会会員  
(同協会前副代表)  
日本美術会会員

### 切り絵を楽しむ

切り絵は紙を素材とし、カッターで切るという技法による平面造形です。

お部屋に飾れるような作品を制作してみませんか。

—実技の工程—

- ・基礎的な切り方(直線、曲線、複雑な線)を習う
- ・単純な作品を作る
- ・基本的な表現(つなぎ、4つの表現、白黒のバランス等)を習う
- ・好きな作品を作ってみる



定員：20名  
受講料：2,500円  
教材費：2,000円  
会場：東館 和室

13:30~15:30

5/24(土)  
5/31(土)  
6/14(土)  
6/21(土)  
7/5(土)

## B 講座

講師

田中裕二(駒27)

医学博士、看護学修士  
千葉大学看護学部卒業  
千葉大学大学院看護学研究科修士  
日本大学医学部助手、講師、  
放送大学非常勤講師などを歴任  
現在、千葉大学大学院看護学研究  
科准教授

### ライフサイクルと健康

私たちは生まれてから死ぬまでのライフサイクルの

各時期において、健康に生活したいと思っています。

本講座では、人間のからだの仕組みと健康について、

食事や栄養、記憶や運動などをテーマにお話したいと

思います。

定員：30名  
受講料：2,000円  
会場：東館 和室

10:30~12:00

6/14(土)  
6/21(土)  
7/5(土)  
7/12(土)

## 受講生の声

### 「港区路地めぐり」に参加して

単なる散歩の会と思ひ、友人を誘って申し込みましたが、こんなに中身の濃いものとはと、喜んでいました。

初回は増上寺・東京タワー周辺。東京の真中に予想外の溪谷そして古墳にびっくり。NHK放送博物館では、参加者の一人が二・二六事件のラヂオ生放送を聞かれたと伺い、事件が遠い昔ではないと実感。愛宕神社では七五三詣での家族、男の子は初めて着る羽織・袴に興奮。

二回目は、青山に明治探し。乃木神社で、結婚式に遭遇。生る雅楽演奏の中、納曾利(なそり)面をつけた舞。新婦は綿帽子、新郎は紋付袴。荘厳かつ華やかでした。

三回目は麻布、四回目は高輪。共に坂が多く、迷子になりそうなコースで、東京に坂の多いことを再認識。

私達は、普段目的地向かって慌ただしく歩き、表面だけを見ていますが、路地には歴史がひっそりと眠り、そこに人々の生活が根付いていることを知りました。

港区の路地めぐりを通して、江戸・明治・昭和の歴史を想い起こし、今も歴史が継承され、私たちの生活に溶け込んでいることを知る小さな楽しい旅でした。

幹事さん達、ありがとうございました。また、次回も、私達のまだ知らない東京を案内していただけることと、楽しみにしています。

萩原 路子(駒15)

### 『百人一首かるた教室』に参加して

私は、都立駒場高校に入学して以来、競技かるたをしていきます。競技かるたは、小倉百人一首の上の句の音を聞いて、対応する下の句が書かれた札を対戦相手よりも速く取る競技です。競技者は、やり始めこそ古典を覚えるのかと思いますが、実際に始めてみると全く和歌であることを意識せずに「音」に集中しています。

今回の萩原先生の講座で、久しぶりに百人一首が和歌であることを思い出しました。高校までの古典の授業では、一般的に有名な歌の概要を教わる程度でしたし、句法を覚えることにも必死で、あまり内容について考えていませんでした。この講座では、歴史的背景や他の歌集等にある事実を基に、より詳しい意味を教えてくださいました。たった三十一文字の中に込められる日本人の想いの深さや、それを読み解くことのできる日本人としての共通の意識の存在に改めて感動しました。

後半の講座では、松桜会の皆さまと一緒に百人一首をかるたとして楽しみました。競技かるたもそうですが、やはり老若男女で実力の差が出ないところがかるたの魅力だと思っています。取りやすいかそうでないか、考えていた小倉百人一首ですが、これからは意味も含めて好きになれそうです。またの機会がありましたら、今回の講座で取り扱われなかった歌についても、萩原先生から教わりたいです。

荒井 智子(駒62)